

愛媛果試第28号の施設内で多発するミカンイロアザミマの防除

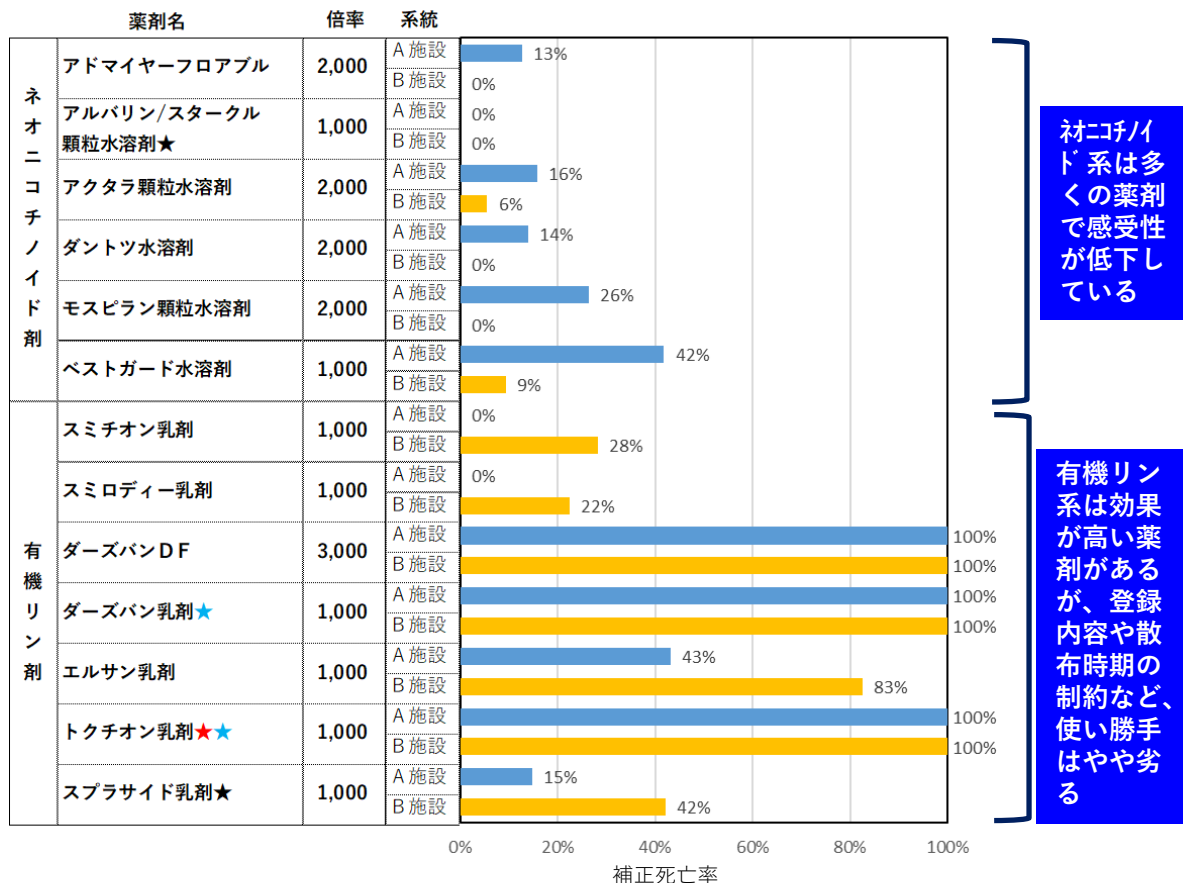
ミカンイロアザミマは、かんきつでは開花期と果実の着色期以外の加害例はほとんど報告が無かったが、**雨よけ施設で栽培を行う愛媛果試第28号では、硬化前の新梢でも寄生・増殖するなど、開花から収穫までの間の発生が観察されている。**

施設内で定着しているミカンイロアザミマは、各種の殺虫剤に対して感受性が低下している事例が発生しており**有効な殺虫剤が少なくなりつつある。** 今後は防除が必要となる時期を明らかにするほか、天敵の活用など**殺虫剤に頼らない防除方法の検討を行う必要がある。**



愛媛果試第28号の葉上のミカンイロアザミマ

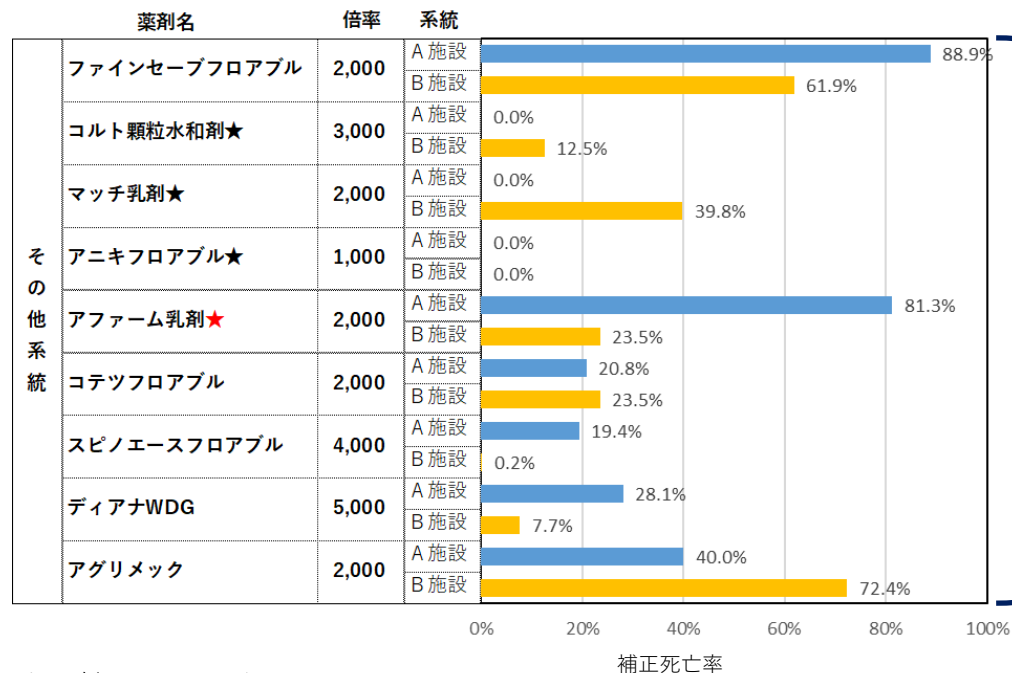
図 松山市内2カ所の愛媛果試第28号施設内で採取したミカンイロアザミマに対する各薬剤の防除効果



ネオニコチノイド系は多くの薬剤で感受性が低下している

有機リン系は効果が高い薬剤があるが、登録内容や散布時期の制約など、使い勝手はやや劣る

【試験方法】
 発芽ソラマメを各殺虫剤に10秒間浸漬し風乾後シャーレに入れ雌成虫を10頭ずつ放飼。
 25°C16L8Dの環境下に置き72時間後に生死を判定
 1区1シャーレ（雌10頭）2又は3反復
 試験は令和元年12月から2年7月までの間に随時実施した。



古くから使用されている薬剤では効果の低下がみられている新系統の薬剤であっても、効果が高いものは少ない

※薬剤名のうち、★はチャキイロアザミマ登録の剤、★はアザミマ類に登録が無い剤、★はみかん登録しかない剤であることを示す。